

## 審議会の財務分析に対する PTA の主張

2005 年 9 月 19 日 PTA タスクフォース

### 1. 現金の減少に関して

審議会側は P/L 上の赤字 36 万ドルと援助金効果 47 万ドルを足した 83 万ドルに他の赤字も含めて、2004 年度は 106 万ドルの現金の減少を引き起こしたとの見解をとっておられます。ここから、これからも毎年 83 万ドル以上の現金減が続くとミスリードしておられるように見えます。

一方、PTA 側は、**2004 年度の大規模な現金の減少は (1) 日本政府の援助金 38 万ドルがたまたま年度内に入金がなかったこと (2) 火災保険金 32 万ドルが額は確定していたが年度内に入金がなかったこと (合計で 70 万ドル)、及び 2004 年度に未入金等の会計方針が変わったための見かけの現金の減りが大きかったことが原因と捉えています。したがって、これらの影響を排除すると実際の現金の減りは 20 万ドルで、無論ほっておいてよい数字ではないですが、パニックになる必要はない数字と評価しています。 (別紙 1 参照)**

### 2. 今後の現金のシミュレーションについて

審議会が実施したシミュレーションでは、生徒数一定の場合で 2008 年度には現金が 200 万ドルを切り、2010 年度には 60 万ドルまで現金が減る、更に生徒数が増えた場合でも 200 万ドルを切る年が 2009 年に一年延びるだけで構造は変わらないとしています。

PTA 側で検証したところ、審議会シミュレーションには幾つかの勘違い、ミスがあり (別紙 2) があり、ほぼ同様の仮定の下に PTA 側でシミュレーションを実施したところ、**生徒数一定の場合でも 2010 年度末の現金と短期の定期預金の合計額は 290 万ドルを維持し、更に生徒数が増加する場合は 2010 年度末で 442 万ドルの現金等を維持できる上、2010 年にはキャッシュ・フローでは黒字に転じるとの結果になっています。**つまり、今後 35 万ドル程度の収支の改善が、収入の増加 (生徒数増加、授業料の多少の値上げ、利子収入の確保、**レント収入の増大**等) と支出の削減の実現できれば、少なくともキャッシュ・フローは黒字に出来るということです。(別紙 2 参照)

### 3. 赤字の原因

審議会側は赤字の大部分の原因は生徒数の減少と結論づけていますが、収入の減少だけに特化した分析では片手落ちだと思えます。

収入と支出の両方を足した分析を PTA 側で実施しましたが、これによると原因は大きい順に **(1) 経費の増加 (2) 生徒数減少に伴う授業料収入の減少 (3) 利子収入の減少が 3 大原因**です。つまり経費の削減が伴わないと真の赤字の解消にはつながらないと思われれます。(別紙 3 参照)

### 4. その他

PTA 側の分析ではグリニッジ全日校単体では **2004 年度の特異要因を除くと黒字であり、リースバック方式ではむしろ赤字が広がる**との結果が出ていますが、これは審議会とは全く別の結論です。(別紙 4、別紙 5 参照)

### 5. 財務分析からの結論

以上の分析から、審議会全体の財務は放っておく事はできないものの、**慌ててハイリスクの決断を行わなければならないほどひどい状況では全くない、と結論づけられると思っています。**